



いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。

---

## 2026年3月期 第3四半期決算補足説明資料

---

2026年2月9日

**SWCC株式会社**

東証プライム 5805

# 目次

---

1. 2025年度第3四半期決算概要

2. Appendix

# 1. 2025年度第3四半期決算概要

---

# 経営環境

- 脱炭素社会や半導体・デジタル関連需要に向けた投資拡大。
  - 工事案件の年間平準化の動きは継続も、例年通りQ3に工事案件が集中。
  - 世界の自動車販売台数は、上期に緩やかな回復が見られたものの、下期に入り減速傾向。
  - 電線業界においては、電線全体の需要は微減。
  - 銅の国内建値平均価格は、前年同四半期より大幅に上昇。

高上壳

電力インフラ、通信ケーブル事業の業績好調、銅価高騰により前年同四半期比增收。

## 【主な事業分野別状況】

エネルギー・インフラ・電力インフラ向け需要は引き続き好調。建設関連向けはQ2以降回復傾向。

通信ケーブル…………米国AIデータセンター向けe-Ribbon®の需要は大幅に拡大。

**半導体**……………拡販を目指す中国半導体検査装置市場は好調でコンタクトプローブの需要は増加。

**自動車**……………自動車メーカーにより差が見られ、ヒータ線需要は調整局面。

## 營業利益

電力インフラ、通信ケーブル需要が好調に推移し、**前年同四半期比増益**。

# 2025年度 第3四半期連結業績 P/L

建設関連は例年通りQ3回復。電力インフラ、通信ケーブル事業も好調に推移。

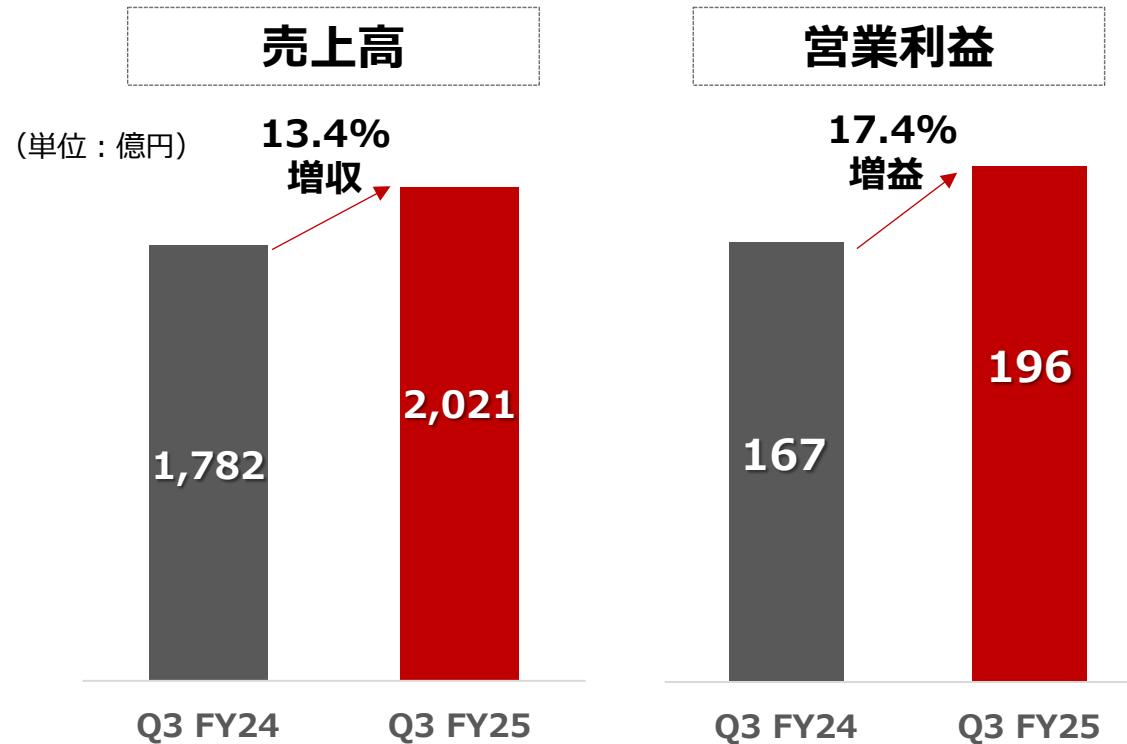
**Q3実績は、売上高、利益共に過去最高を更新し、順調に進捗。**

(単位：億円)	Q3 FY24 実績	Q3 FY25 実績	YoY %	FY25 通期計画	進捗率 %
売上高	1,782	2,021	13.4%	2,700	74.8%
営業利益	167	196	17.4%	260	75.2%
営業利益率 %	9.3%	9.7%	—	9.6%	—
経常利益	71	188	165.6%	250	75.3%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	77	128	64.6%	160	79.7%

# 2025年度 第3四半期決算のポイント

## Q3前年同四半期比

電力インフラ、通信ケーブル事業の業績好調により、**増収・増益にて、共に過去最高を更新。**



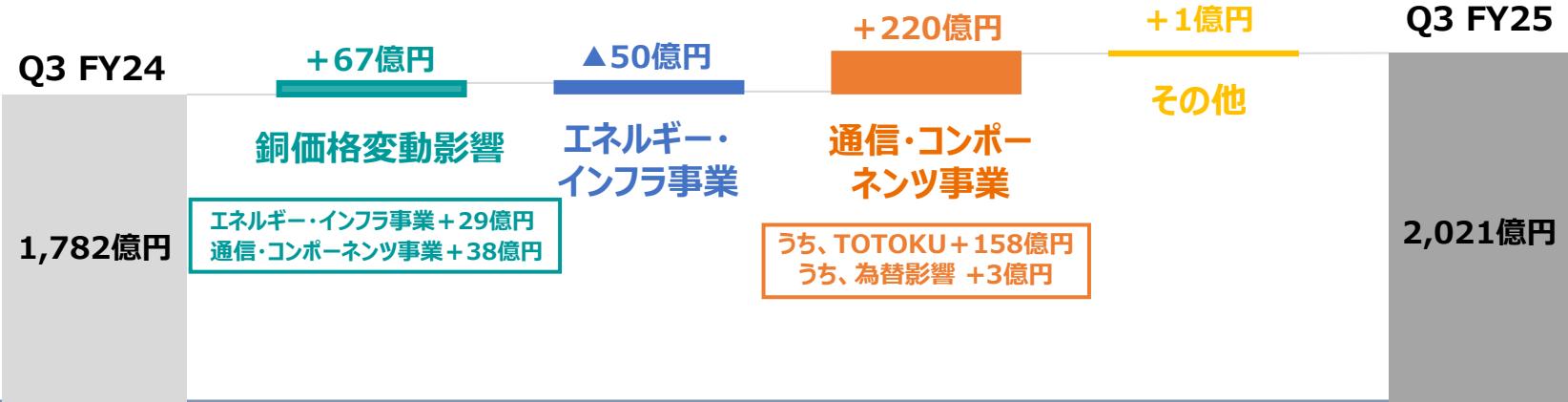
## Q3進捗率

売上高・営業利益ともに**順調な**進捗。

(単位：億円)	通期計画	FY20-24 平均進捗率	Q3進捗率
売上高	2,700	74.0%	74.8%
営業利益	260	73.8%	75.2%

# 2025年度 第3四半期 増減要因（前年同四半期比）

## 売上高増減要因

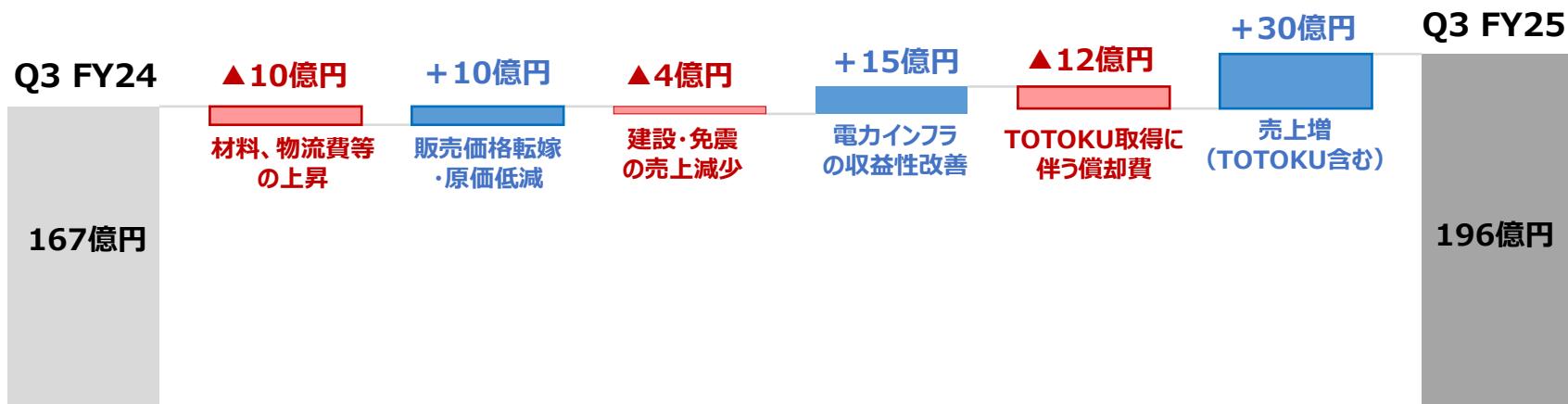


## 【増減要因】

### 1. 売上高

銅価格の高騰および第2の成長の柱である通信・コンポーネンツ事業の売上増により**前年同四半期比増収**。

## 営業利益増減要因



### 2. 営業利益

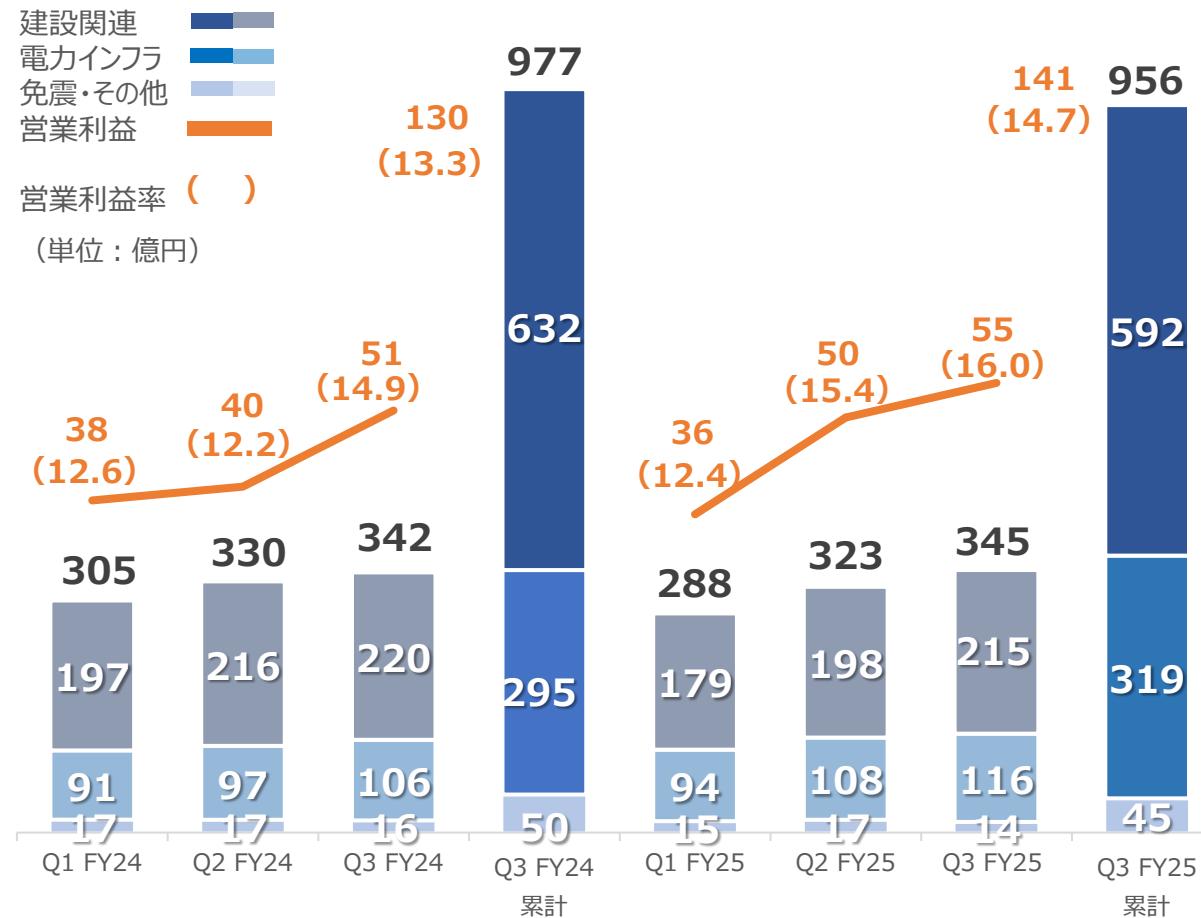
コスト上昇は、販売価格転嫁と原価低減でカバー。建設関連の減少は期初想定よりも縮小。TOTOKU取得に伴う償却費も期初想定内。電力インフラの収益性改善およびTOTOKU含む全体の売上増により**前年同四半期比増益**。

# 2025年度 第3四半期セグメント別業績 P/L

		Q3 FY24 実績	Q3 FY25 実績	YoY %	FY25 通期計画	進捗率 %
(単位：億円)						
エネルギー・インフラ事業	売上高	977	956	▲2.1%	1,300	73.6%
	内、建設関連	632	592	▲6.3%	790	74.9%
	内、電力インフラ	295	319	8.2%	444	71.8%
	内、免震・その他	50	45	▲9.8%	66	68.5%
	営業利益	130	141	8.5%	182	77.4%
	営業利益率 %	13.3%	14.7%	—	14.0%	—
通信・コンポーネンツ事業	売上高	759	1,017	34.0%	1,325	76.7%
	内、通信ケーブル	213	251	17.7%	330	76.0%
	内、モビリティ・半導体用	260	376	44.4%	490	76.7%
	内、産業用	285	390	36.7%	505	77.3%
	営業利益	39	55	39.9%	78	70.4%
	営業利益率 %	5.2%	5.4%	—	5.9%	—
	EBITDAマージン %	7.4 %	9.2%	—	9.8%	—

# 2025年度 第3四半期 セグメント業績 エネルギー・インフラ事業

国内建設関連向けは、Q3回復。電力インフラについては、アルミ架空電線撤退による売上減少はあるも、工事増と事業全体の付加価値向上により利益率が向上。前年同四半期比減収（2.1%減）・増益（8.5%増）。



## Q3業績 好不調の要因

- ・労働時間規制の工期長期化による需要減と資材価格高騰の影響は続くも、例年通りQ3は回復
- ・生産効率改善効果により利益改善

Q4見込 例年通りQ4は需要減少見込み

### 建設

- ・工事件数増加、SICONEX®の増産投資効果、および付加価値向上により利益率向上

Q4見込 引き続き需要堅調が継続

### 電力

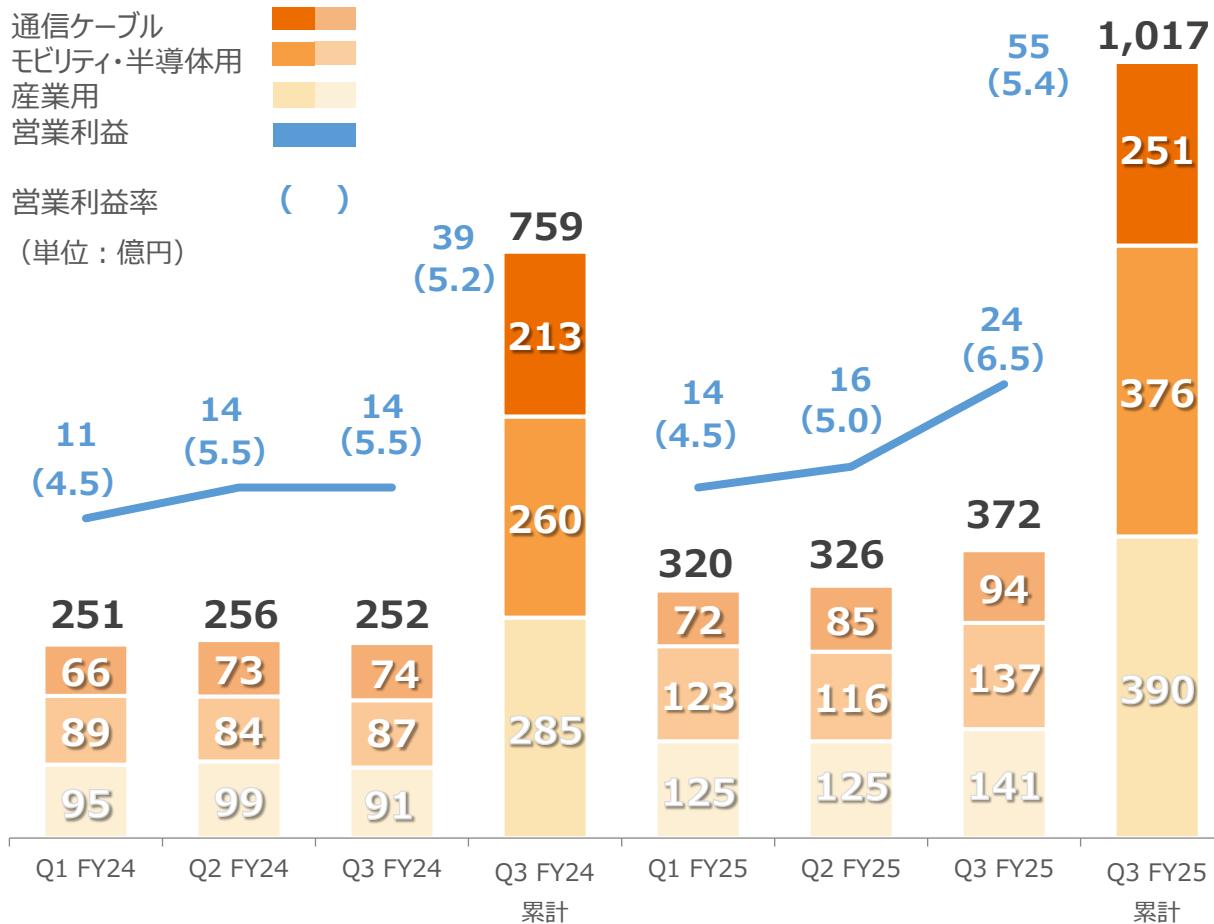
- ・免震事業撤退に伴う、減収・減益

Q4見込 減収・減益の継続

### 免震・その他

# 2025年度 第3四半期 セグメント業績 通信・コンポーネンツ事業

通信ケーブルは、米国AIデータセンター向けe-Ribbon®の需要が下期に向け急拡大。TOTOKU業績統合による売上増の一  
方で、産業用は苦戦。前年同四半期比增收（34.0%増）・増益（39.9%増）。



## Q3業績 好不調の要因

- ・ハイパースケーラー需要活発でe-Ribbon®は顧客より增量要請あり好調
- ・ADAS標準搭載車は拡大し、車載向けは特に北米で好調

Q4見込 e-Ribbon®需要増継続

### 通信

- ・中国半導体検査装置市場は好調継続。>Contact Probeは下期に入り大幅増産
- ・シートヒータ市場は拡大傾向も顧客の在庫調整あり

Q4見込 半導体検査装置市場は活況継続

### モビリティ・半導体

- ・ワイヤハーネスは中国市場は家電向け補助金政策効果剥落により需要減速
- ・汎用巻線は市場鈍化

Q4見込 汎用巻線は収益改善に向けた構造改革に着手

### 産業用

# 2025年度 第3四半期 連結業績 B/S (前期末比較)

(単位 : 億円)	FY24	Q3 FY25	増減
<b>資産合計</b>	<b>2,110</b>	<b>2,113</b>	<b>3</b>
現預金	194	118	▲77
売上債権	542	569	26
棚卸資産	330	347	16
固定資産	1,005	1,005	0
<b>負債合計</b>	<b>1,188</b>	<b>1,107</b>	<b>▲81</b>
仕入債務	281	281	0
有利子負債	547	523	▲24
<b>純資産合計</b>	<b>921</b>	<b>1,006</b>	<b>85</b>
自己資本	837	919	82
自己資本比率 %	39.7	43.5	3.8pt
<b>DEレシオ %</b>	<b>65.4</b>	<b>56.9</b>	<b>▲8.5pt</b>

注) 当連結会計年度において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度に係る各数値については、確定後の数値を反映して比較している。

## 【資産】

有利子負債返済に伴い、現預金減少。  
売上上昇に伴い売上債権、棚卸資産増加。

## 【負債】

借入金および未払法人税が減少したため、減少。

## 【自己資本比率】

業績好調により、前期末対比3.8ポイント増。

## 【DEレシオ】

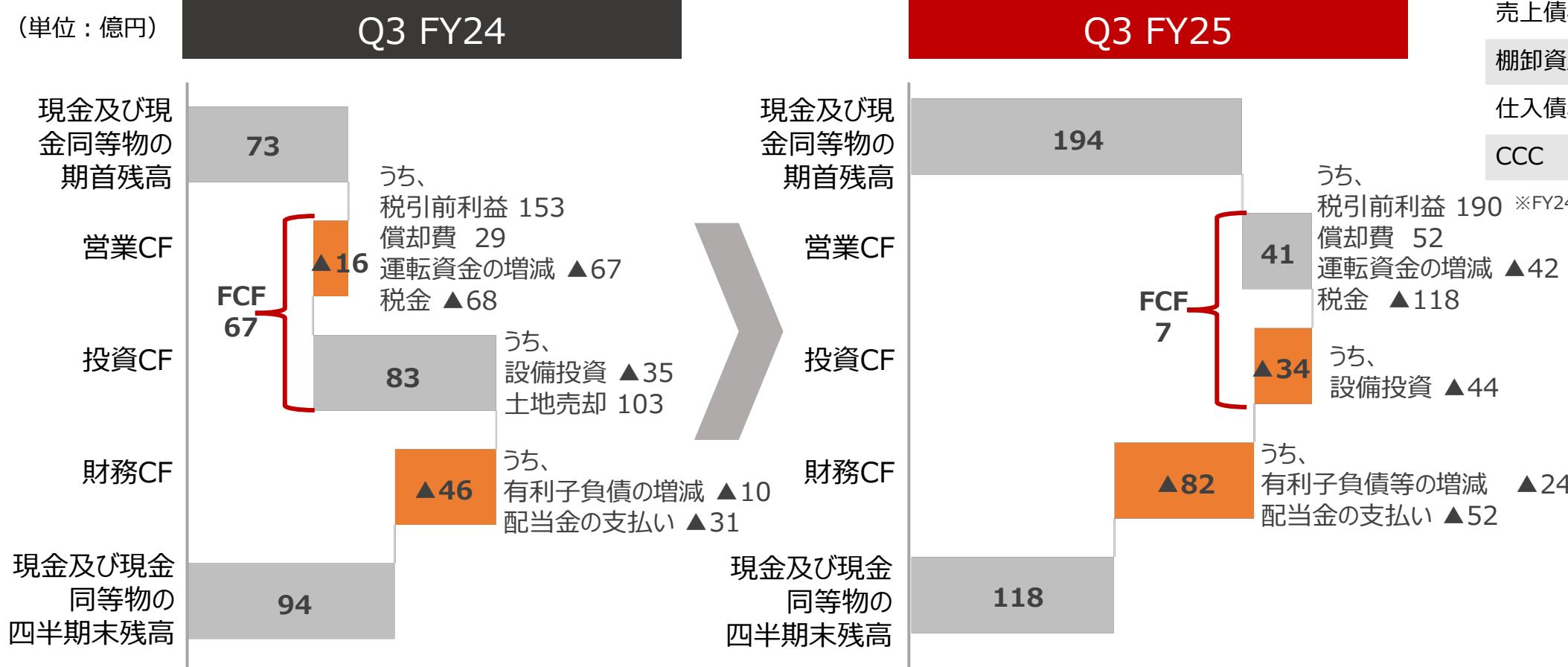
負債の減少により、前期末対比8.5ポイント減。ネットDEレシオは44.1%。

＜現状の課題認識と今後の対応策＞  
TOTOKU社のグループ化により昨年度末に一時的に  
**増加した現預金の水準の適正化を図ったことにより、  
有利子負債を圧縮。**引き続き、適正な水準での在庫  
の確保と債権回収期間の短縮を図ることで、CCCの改  
善を進める。

# 2025年度 第3四半期連結業績 CF (前四半期比較)

現預金の水準適正化を図り、有利子負債を削減。

(単位：億円)



運転資金の改善	FY24	Q3 FY25
※		

売上債権回転日数	82	70
棚卸資産回転日数	50	43
仕入債務回転日数	42	35
CCC	89	78

※FY24は、TOTOKUの貸借対照表のみ連結。

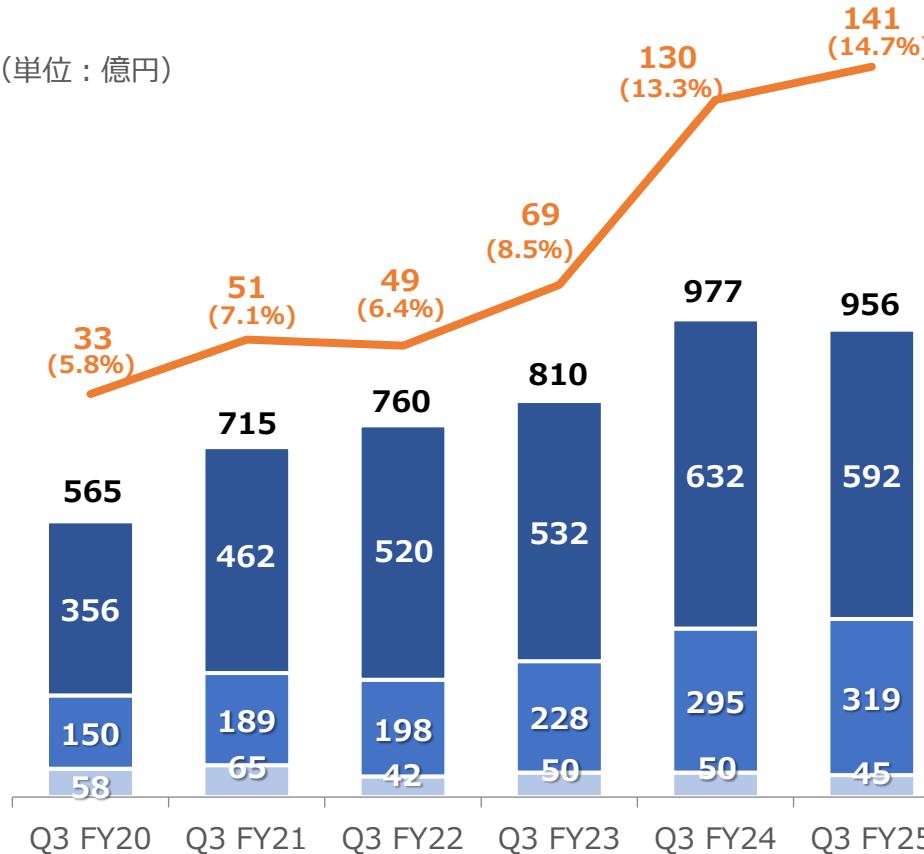
注：フリーキャッシュフロー（FCF）= 営業キャッシュフロー + 投資キャッシュフロー

# 2025年度 第3四半期 業績推移（累計）

## エネルギー・インフラ事業

■ 建設関連 ■ 電力インフラ ■ 免震・その他 ■ 営業利益 ( ) ■ 営業利益率

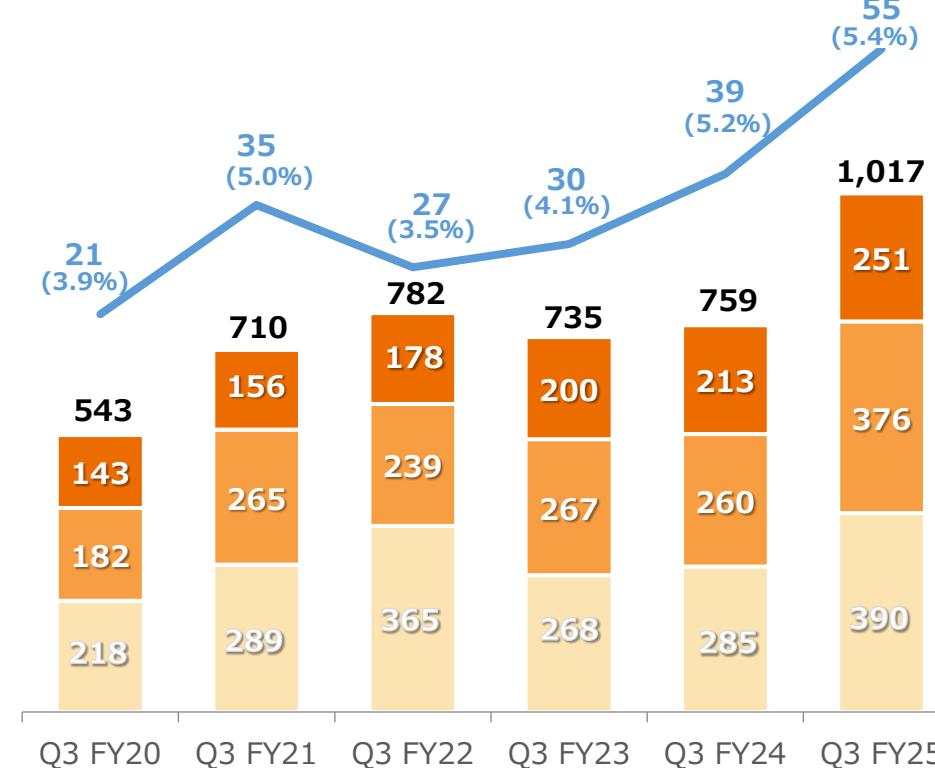
(単位：億円)



## 通信・コンポーネンツ事業

■ 通信ケーブル ■ モビリティ・半導体用 ■ 産業用 ■ 営業利益 ( ) ■ 営業利益率

(単位：億円)



## 2 . Appendix

---

# 産業用巻線事業の構造改革 2/9 ニュースリリース

事業環境の変化や収益構造の見直しに伴い、当社の山元工場（宮城県）を閉鎖し、産業用巻線の販売体制を再編。

## 商流・物流の一元化・DX推進



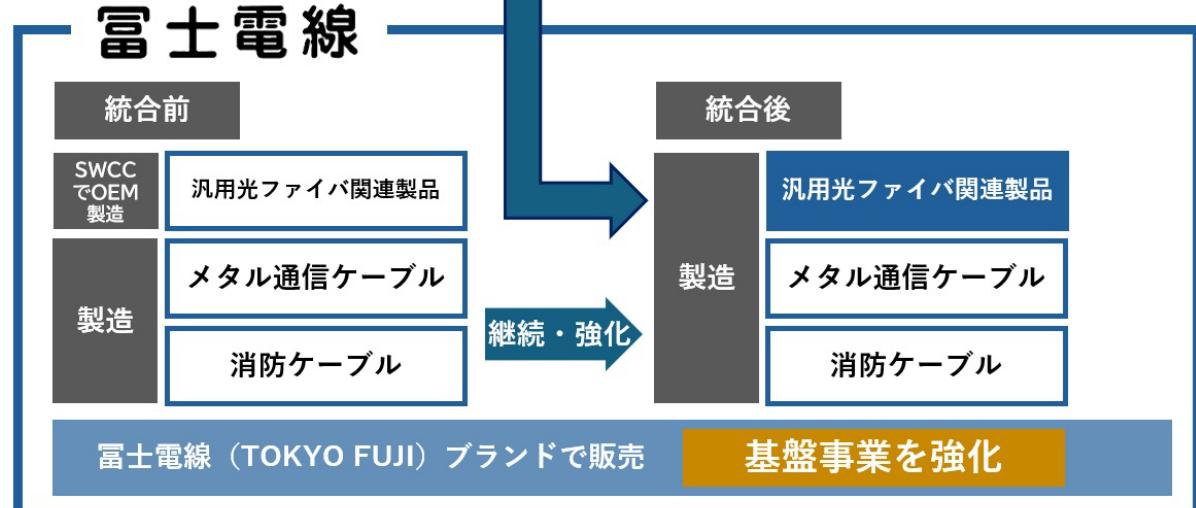
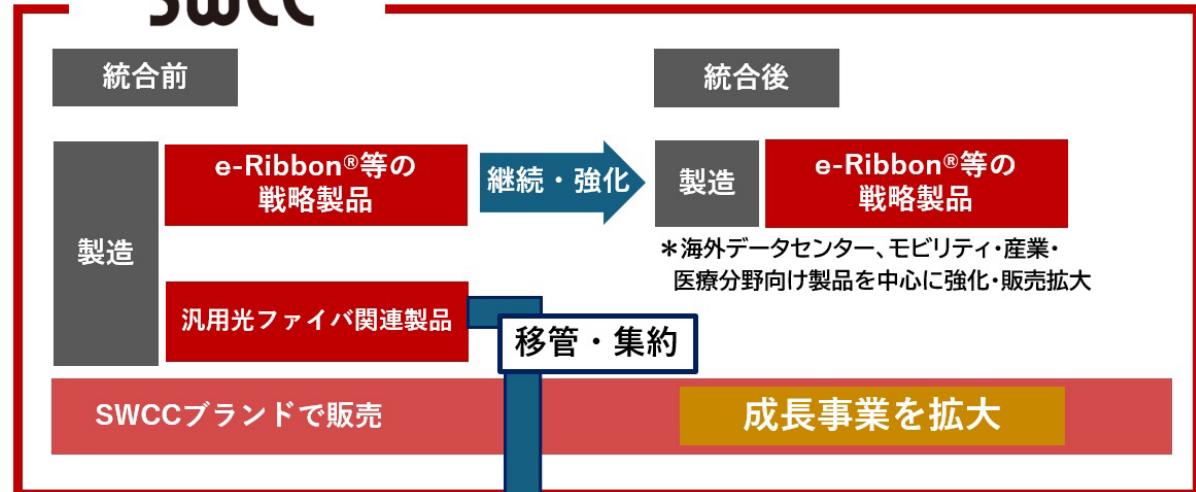
e-Ribbon®の製造へシフト  
年間約4億円の収益改善効果

- 販売はSDSへ商流を集約・一元化
- 営業体制の最適化
- DXによるリードタイム短縮・顧客サービスの向上

**2030年までに産業用巻線  
売上高 約60億円  
(2024年比約2倍)を目指す**

# 汎用光ファイバ関連製品を富士電線に集約 12/17 ニュースリリース

**SWCC**



## 目的①

### <成長事業の拡大>

海外データセンター向けに需要が拡大している「e-Ribbon®」等の戦略製品の製造・販売に特化

## 目的③

### <SWCCグループの収益力の向上>

2社間で重複していたリソースや関連業務を集約することで、業務の効率化を図り、安定したキャッシュの創出へ

## 目的②

### <基盤事業の強化>

国内建設関連市場向けを中心に「TOKYO FUJI」のブランド力を生かした拡販と製造・物流の効率化に注力

12/9 ニュースリリース

高経年設備の更新や送配電網の増強で需要が拡大する中、**人手不足が大きな課題**に。

SICOPLUSの教育プログラムと簡易施工型ケーブルの拡充により、省力化・スキルレス化を、より高い電圧レベルでも実現。

## イージーストリッピングタイプケーブル 『e-Cable™』の特長

従来の66kV以上の電力ケーブル



『e-Cable™』

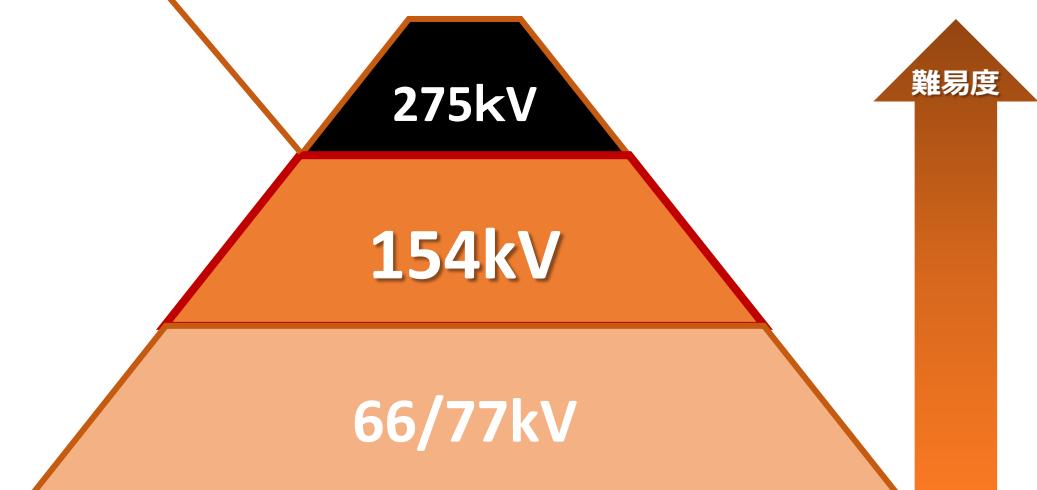


従来は、鋭利な工具で真円に削る高度な処理スキルが求められていた。

- 作業が簡易的になり、**スキルレス化が可能**（教育期間3年が3か月に）
- 作業時間が従来の約1/4に短縮

2025年11月

新ブランド戦略『e-Cable（イーケーブル）TM』  
簡易施工タイプの電力ケーブルを  
従来の66kVから**154kV**へラインナップ拡充



◆ 12/9 ニュースリリース [https://www.swcc.co.jp/jpn/news/detail/2025/news\\_7065.html](https://www.swcc.co.jp/jpn/news/detail/2025/news_7065.html)

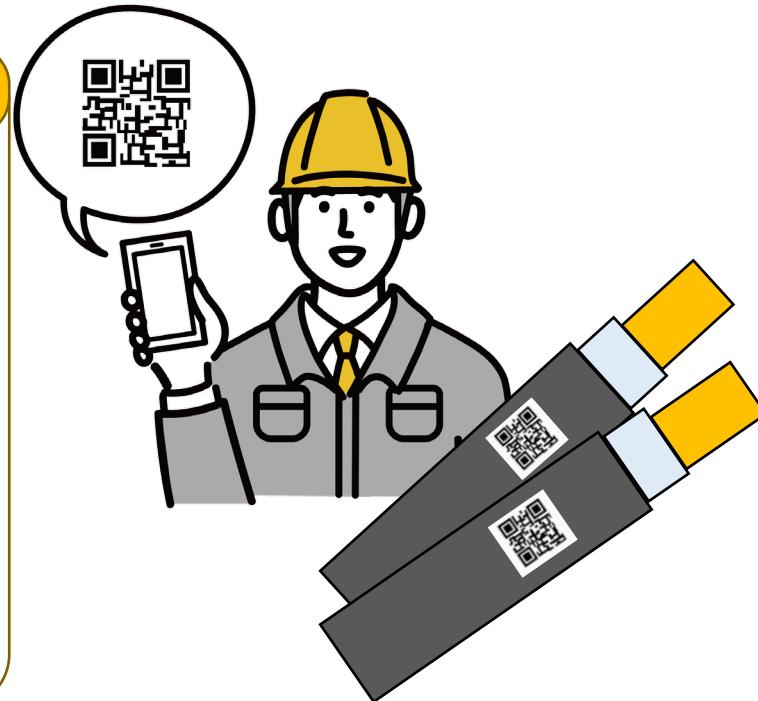
# 電力製品に二次元コードの導入を開始 12/5 ニュースリリース

独自の識別情報を付与した二次元コードを製品に導入。情報を読み取るスマートフォン専用読み取りアプリの開発も。

## 導入の背景

- ✓ 電力ケーブルの更新需要等による設備導入が増加
- ✓ 電力ケーブル敷設後の保守・点検時に外観から電力ケーブルの製品履歴を把握困難
- ✓ 人手不足の深刻化

⇒ 作業が煩雑で時間を要す



## 特長

- ▶ 電力ケーブルの被覆表面に製品の識別情報を付与した二次元コードを一定間隔で連続印字
- ▶ 品名、ケーブルの長さ、敷設位置 製造記録を即座に特定
- ▶ 記録管理、製品トレーサビリティ管理の利便性向上

⇒ 効率的な作業で人手不足も解決

## <今後の展開>

電力ケーブル以外の製品にも展開し、お客様による、  
製品情報・保守履歴など、確認可能なアプリを提供していく

◆ 12/5 ニュースリリース [https://www.swcc.co.jp/jpn/news/detail/2025/news\\_7052.html](https://www.swcc.co.jp/jpn/news/detail/2025/news_7052.html)

# IR・企業サイト・ガバナンス領域での受賞実績（11月～2月）



主催：一般社団法人日本IR協議会  
受賞：IR優良企業賞2025 「"共感！"IR賞」

◆[2025/11/13 ニュースリリース](#)



主催：日興アイ・アール株式会社  
受賞：「2025年度 全上場企業ホームページ充実度ランキング」「最優秀サイト」

◆[2025/12/23 ニュースリリース](#)



Corporate Governance  
of The Year

主催：一般社団法人日本取締役協会  
受賞：「コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー2025」「Winner Company（入賞）」

◆[2026/1/13 ニュースリリース](#)



**SWCC株式会社**

<https://www.swcc.co.jp>

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。